

法の光

～法光山 妙勝寺 通信～

No.279

令和五年(2023年)12月 1日 発行

文責：松田 龍顕

ホームページ <http://www.myosyoji.net/> 又は「法光山 妙勝寺」で検索

合掌

令和五年も残りわずかとなり、妙勝寺に就任して初めての御会式を役員・婦人部の皆様 又、檀信徒の皆様方のご協力を頂き11月23日に無事厳修する事が出来ました。



本年より、これまで長年に亘り護持会の皆様方に餅柱の準備作業をして頂いておりましたが、昨今の妙勝寺ならびに護持会を取りまく環境を鑑み、従来の形を踏襲しながらも負担を軽減し、また次世代へ繋いでいけるように新しい餅柱を日蓮大聖人へお供えさせて頂きました。

お会式に餅柱をお供えするお寺は全国の日蓮宗寺院でも数える

程しかなく、この伝統を今日まで守り続けてこられたのは護持会の皆様のご理解とご協力の賜物です。

心より御礼申し上げます。

これからは、この餅柱を護持会の皆様と一緒に守り伝えていけたらと思います。

～年末年始のご案内～

12月31日

除夜の鐘

本堂に於いて年始の祝祷法要
妙見堂に於いて新年の御札のご祈祷

※お気軽にご参詣下さい※

1月4日

新年の御札配り開始

2月3日

13時～

節分星祭り法要

妙見堂に於いて法楽加持祈祷

※ご参詣の方には節分の修法と頂戴經を行わせて頂きます※

☆厄除け祈願を受け付けております☆
ご希望の方は妙勝寺までご連絡下さい

◎お会式とは？

日蓮大聖人の御命日に行く、日蓮聖人へ報恩感謝の気持ちを表す法要のことです。日蓮宗に限らず各宗派の開祖の御命日に行われる法要をお会式と呼びますが、日蓮宗のお会式では大聖人がお亡くなりになられた霊地である池上本門寺に於いて

御臨滅の際に庭先の桜が花を咲かせたという逸話から、桜の造花で飾りつけた万灯が全国から100基近く集まり、纏（まとい）や団扇太鼓に先導され練供養が行なわれます。その盛大さから日蓮宗のお会式は『秋の季語』となり、松尾芭蕉の句や歌川広重の『江戸自慢三十六興』からもその賑やかな様子が伺えます。

妙勝寺に於きましても、臨滅度時の桜を模した造花で本堂や餅柱を飾り付けをして報恩感謝の法要を営ませて頂いております。



◎妙見菩薩さま

『年末年始のご案内』でご紹介させて頂きましたが妙勝寺境内には『北辰ほくしんみょうけんぼさつ妙見菩薩』さまがおられる妙見堂が御座います。

『菩薩』さまと聞くと観音さまのような優しげなお姿を想像されると思いますが、妙見菩薩さまは甲冑を纏い刀を掲げた勇ましいお姿をされております。

◎どのような菩薩さま？

妙見菩薩様は『北辰』の名の通り、北極星を司る菩薩様です。

古来より人々は「運命は星の巡りに左右される」と考え、特に、巡る星々の中心に在り続け不動の存在である北極星は「星々の王」であるとされてきました。星々の動きを司る妙見菩薩様は「開運のご利益」があるとされ

また「武力」を司る北斗七星を従えて

いると考えられた事から軍神として「法華経を信じる人を守護する」守護神としても信仰されるようになりました。

その為、一般的にイメージされる観音様のような柔和なお姿ではなく、魔や厄を払う力強いお姿をされております。

妙勝寺では新年の節に妙見さまにご祈願し、新年の開運をご祈願しております。

